

豊橋ハートセンターの「風船療法」

ローマへ衛星放映

現地の学会で討論も



東海日日新聞社
 豊橋市東松山町90
 郵便番号440-0874
 電話(代表)053-7126
 FAX 53-7222



心臓の循環器手術の様相 (豊橋ハートセンターで)



鈴木孝彦院長

鈴木院長、日本で第一人者

豊橋市大山町の豊橋ハートセンター(鈴木孝彦院長)は二月九日、同院内で取り組む循環器手術の一つ「風船療法」を、イタリア・ローマで開催される循環器学会に衛星通信を通じて放映することになった。日本では循環器手術の第一人者でもある鈴木院長(ま)などが手術に参加。ローマで手術の様相を見る欧州の医師たちとの間で討論も繰り広げる。

国内で六回ほど開かれた経緯もあり、今回の放た循環器学会の手術のラ映が実現した。国内の病イブ・デモンストレーションで取り組まれる手術が外国の学会で放映される

のは珍しいという。当日は、鈴木院長のほか滋賀県立成人病センターの玉井秀男医師(ま)、京都桂病院の加藤修医師

(ま)など三人が参加。狭心症や心筋梗塞(こうそく)になった三人の患者を相手に、午後四時から約二時間、風船療法やステント療法を試す。ローマでは国際会議場に集まった約二千人の医師たちが、時差の関係で午後八時から同十時に上映される画面を見ながら、手術に当たる鈴木医師たちと討論も行う。

鈴木院長は昭和四十八年に岐阜大医学部を卒業。豊橋市高山町の国立療養所豊橋東病院の副院長を経て、平成十一年に豊橋ハートセンターを設立した。現在、日本心臓学会インターベンション学会の副理事長などを務めるなど、日本の循環器学会の第一人者。同センターが開設から十年間で「風船療法」などの手術を実施した症例は検査・治療で三千二百人を超え、全国でもトップクラスになった。

風船療法 重症狭心症などに対して行われる手術方法で、正式には経皮的冠動脈形成術(PTCA)といわれ、太ももの付け根の大動脈からワイヤーを心臓近くまで挿入し、冠動脈の狭くなった病変部を風船で広げる手術。